

米雇用統計、失業率は予想外の低下

ポイント① 失業率は予想外に低下

10月7日に発表された9月の米雇用統計では、非農業部門就業者数が前月比で26.3万人の増加と前月から雇用の伸びは鈍化し、概ね市場の予想通りの数字となりました。一方、失業率は前月比で横ばいとした事前の市場予想に反して、3.5%に低下し、労働需給のひっ迫が続いていることが示されました。平均時給の伸びは前年同月比+5.0%と前月から鈍化したものの、高水準で推移しています。

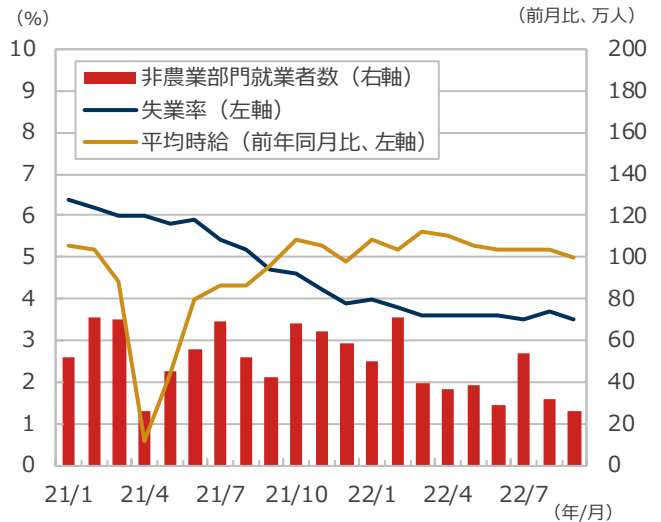
ポイント② 製造業の景況感は悪化

FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げの影響を背景に9月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は前月から1.9ポイント低下の50.9と景況感が悪化しています。住宅販売が下火になっている影響などにより、新規受注と雇用の指数は大幅に低下しています。一部の業種では今後の財需要の冷え込みに備え、採用活動を控える企業も出てきているようです。一方、非製造業は、景況感指数にみられるようにサービス需要が依然高く、サービス業を中心とした賃金上昇がインフレを長期化させる可能性には警戒が必要です。

ポイント③ FRBは大幅利上げを継続か

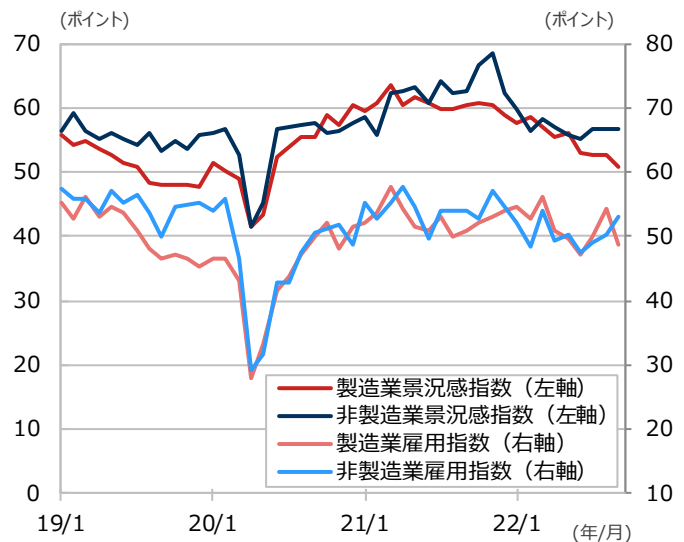
今回の雇用統計の結果を受け、7日の米国株の主要3指数は下落しました。利上げの効果も相まって、就業者数の伸びは今年最も低調となった一方、前月から失業率が低下し、労働需給のひっ迫が示されたことから、FRBの利上げペースが減速するという期待が後退したことが要因だと考えられます。次回の11月FOMC（米連邦公開市場委員会）では、前回同様0.75%の利上げが行なわれるか否かに注目です。

米失業率・平均時給・非農業部門就業者数の推移



期間：2021年1月～2022年9月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と雇用指数の推移



期間：2019年1月～2022年9月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

| | | |
|---------------|--------|-----------------------|
| 重要イベント | 10月13日 | 米消費者物価指数 (9月) |
| | 10月14日 | 米シガン大学消費者マインド指数 (10月) |